

【2020.07.01 まなびポケット活用向上セミナー】

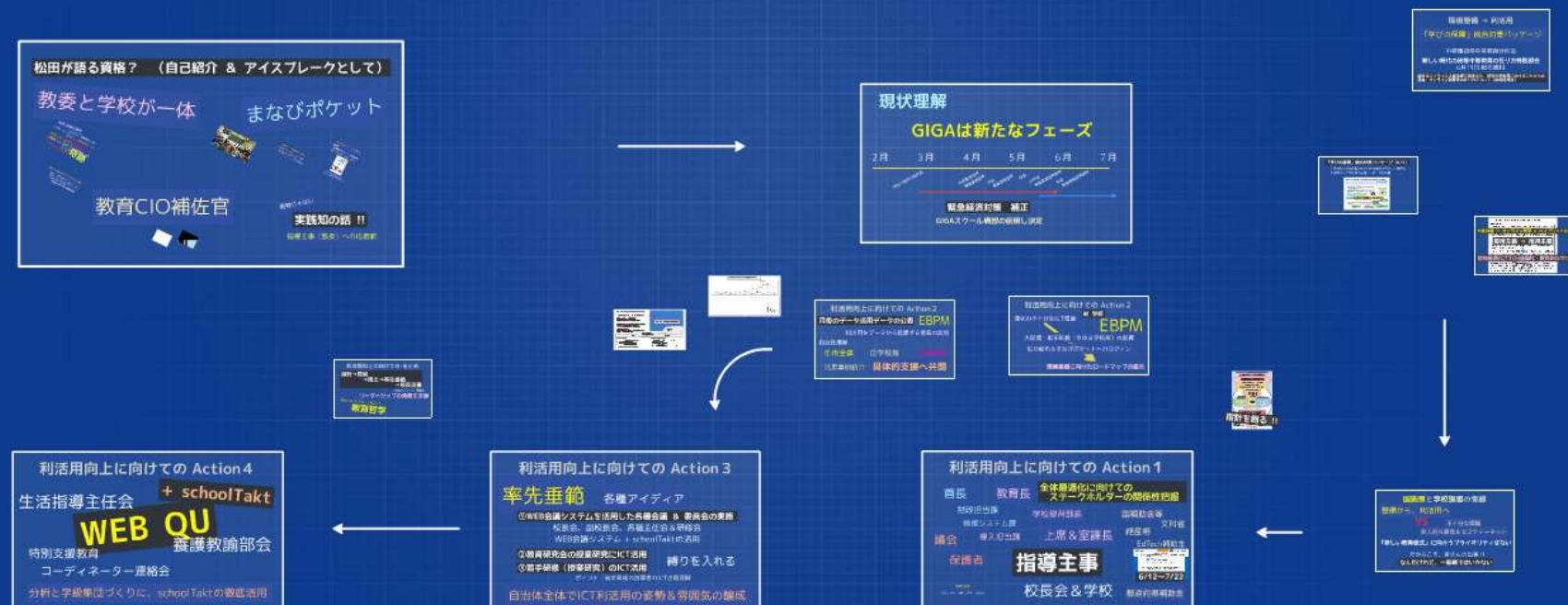
教育委員会と学校が一体で行う まなびポケット活用向上施策



小金井市教育CIO補佐官 松田 孝

【2020.07.01 まなびポケット活用向上セミナー】

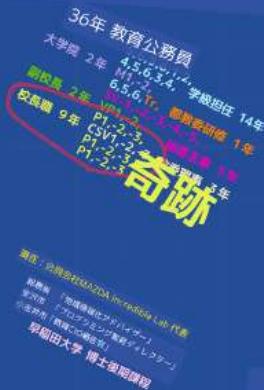
まなびポケット活用向上施策



小金井市教育CIO補佐官 松田 孝

松田が語る資格？（自己紹介 & アイスブレークとして）

教委と学校が一体



まなびポケット



「まなびポケット」の前身
先駆的教育システム実証事業
H26 (2014) ~ H28 (2016)
シングルライセンス
秀逸なコンテンツ群
データ利活用



教育CIO補佐官

借物じゃない

実践知の話 !!

指導主事（教委）への応援歌



36年 教育公務員

5,6,5,6,1,2,

4,5,6,3,4,

學級擔任 14年

M1,-2,

6,5,6,Tr,

都教委研修 1年

SV-1,-2,-3,-4,-5,

VP1,-2,

指導主事 5年

P1,-2,-3,

CSV1,-2,-3

都教委理事 3年

P1,-2,-3,

P1,-2,-3

奇跡

大學院 2年

副校長 2年

校長職 9年

現在：合同会社MAZDA Incredible Lab 代表

総務省 「地域情報化アドバイザー」

金沢市 「プログラミング教育ディレクター」

小金井市「教育CIO補佐官」

早稲田大学 博士後期課程

& アイスブレークとして)

まなびポケット



「まなびポケット」の存在抜きには語れない
シングルサインオン
秀逸なコンテンツ群
データ利活用

一人一台の情報端末



一人一台の情報端末



「まなびポケット」の存在抜きには語れない

シングルサインオン
秀逸なコンテンツ群
データ利活用

まなびポケットの前身

総務省

先導的教育システム実証事業

H26（2014）～H28（2016）



[https://www.soumu.go.jp/
main_content/000492552.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000492552.pdf)



文研修 1年
4,5, 指導主事 5年
実習事 3年
跡

代表

教育CIO補佐官

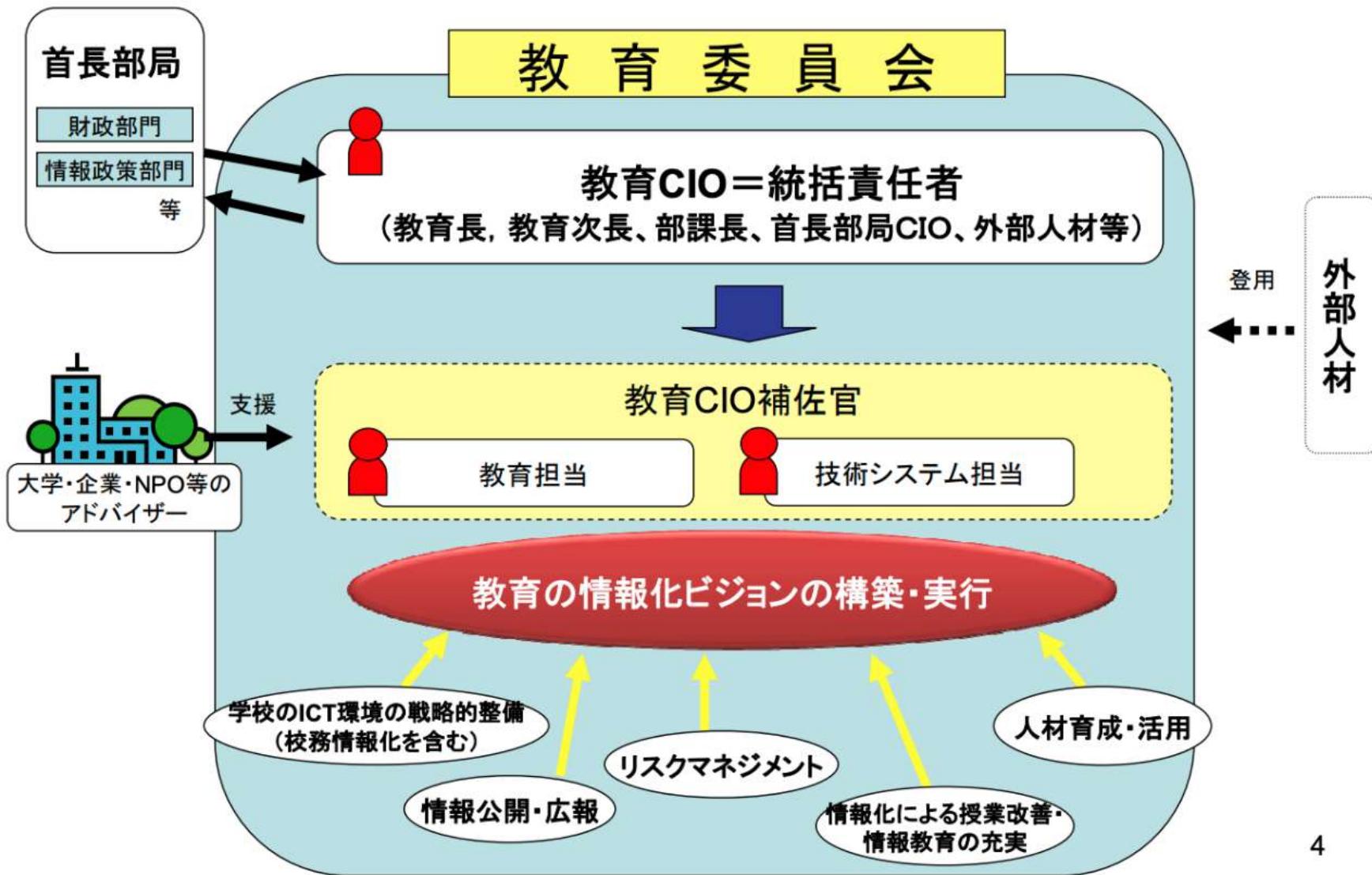


学校のICT化のサポート体制の在り方について ～教育の情報化の計画的かつ組織的な推進のために～

－概要－

平成20年7月
文部科学省

人材配置による教育CIO機能の実現



借物じゃない

実践知の話 !!

指導主事（教委）への応援歌

現状理解

GIGAは新たなフェーズ

2月

3月

4月

5月

6月

7月

学校の臨時休校要請

特定警戒地域
緊急事態宣言

全国
緊急事態宣言

延長

39府県
緊急事態宣言解除

全国

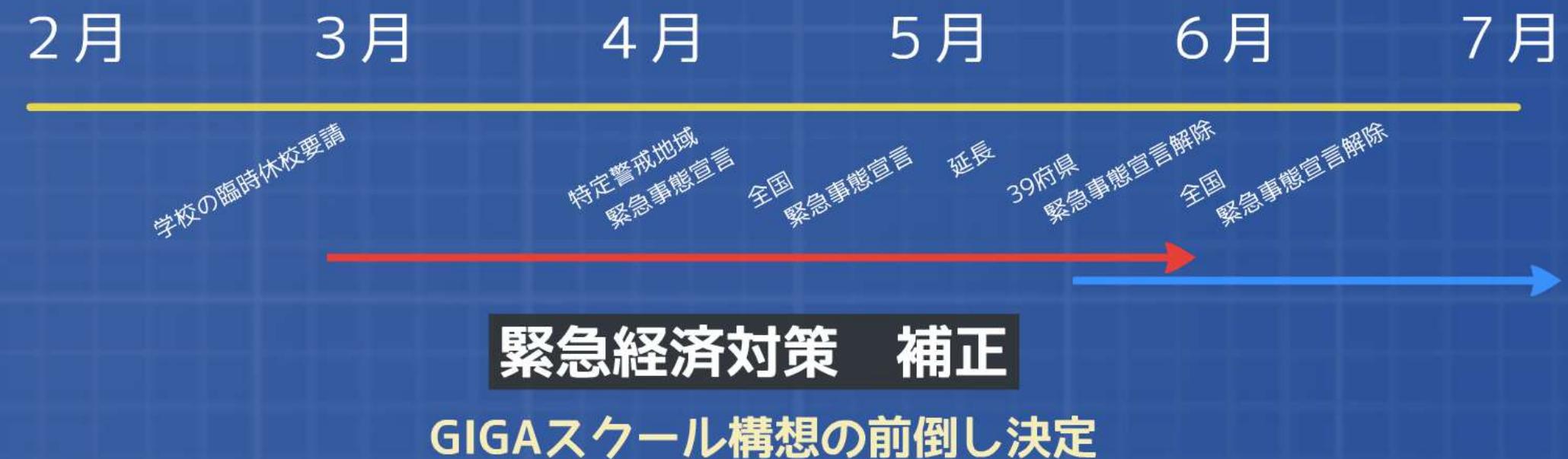
緊急事態宣言解除

緊急経済対策 補正

GIGAスクール構想の前倒し決定

現状理解

GIGAは新たなフェーズ



環境整備 → 利活用

「学びの保障」総合対策パッケージ

中教審初等中等教育分科会

新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会

6月11日 配布資料

新型コロナウイルス感染症を踏まえた、初等中等教育におけるこれからの
遠隔・オンライン教育等の在り方について（検討用資料）

「学びの保障」総合対策パッケージ（6/5）

- I 効果的な学習保障のための学習指導の考え方の明確化
- II 国全体の学習保障に必要な人的・物的支援

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の「学びの保障」総合対策パッケージ－全体概要－

あらゆる手段で、子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障

感染症対策を徹底しながら、まずはしっかりと学校での学習を充実

最終学年（小6・中3・高3）は優先的な分散登校等も活用し、学習を取り戻す

他の学年は、2～3年間を見通した教育課程編成も検討し、着実に学習保障

◆授業を協働学習など学校でしかできない学習活動に重点化し、限られた授業時数の中で効果的に指導
個人でも実施可能な学習活動等は授業以外の場で実施。※教科書発行者の協力により、学習活動の重点化等に関する参考資料「子供の学び応援サイト」に掲載

◆最終学年以外については、指導事項の一部を次年度以降に移す特例的対応を可能に

◆人との体制の緊急整備（第二次補正予算案に計上）
教員加配（3,100人）、学習指導員（61,200人）、スクール・サポート・スタッフ（20,600人）の追加配置。
※遠隔教員や大学生等に協力いただける学校・子供応援ボランティア人材バankei開設

感染症対策や学習保障のために迅速かつ柔軟に活用できる経費を1校あたり100～500万円支障。

※状況や学校規模等に応じて配分

◆ICT活用によるオンライン学習の確立
端末、モバイルルーター等を特に窮屈でICT環境を整備できない子供向けに優先配備。
教員間、第二波に備えて発生する各地域の学校でオンライン学習が可能に。
※全国での学校現場リモート体制等を通じて、教職員向け研修やオンライントレーニングを提供

※今後、学習履歴の活用などを含めた、個別最適化された学びの実現について検討していく

「子供の学び応援サイト」を通じた動画・教材の提供
(シート400以上、資料用映像400件以上)

子供の学び応援サイト

「子供の学び応援サイト」を通じた動画・教材の提供
(シート400以上、資料用映像400件以上)

子供の学び応援サイト

授業日数イメージ

学びの保障 ≠ 授業時数の確保

通常の1半期の平均的な授業日数：200日程度

3月の一斉臨時休業により未指導分がある場合は、別途その分の補充授業・補習が必要。

4～6月（臨時休業、分散登校）

※6月は、分散登校により不足する授業日数は一部のみ

地域や学校、生徒の実態に応じて検討

45日程度

学習活動の重点化：20日程度分
※個人でも実施可能な学習活動の一部を授業以外の場において実施

授業日数の確保：35日程度分
※夏季・冬季・春季休業の相接、土曜午前授業の実施、1コマの適切な補充授業・補習、学校行事の重点化など

学校が課した家庭学習を授業と同様に評価
※補習は集中せず一定の量をふさぎながら各々適切に課していた場合

1

◆授業を協働学習など学校でしかできない学習活動に重点化し、限られた授業時数の中で効果的に指導

個人でも実施可能な学習活動等は授業以外の場で実施。※教科書発行者の協力により、学習活動の重点化等に関する参考資料を「子供の学び応援サイト」に掲載

◆最終学年以外については、指導事項の一部を次年度以降に移す特例的対応を可能に

◆人的・物的体制の緊急整備（第二次補正予算案に計上）

教員加配（3,100人）、学習指導員（61,200人）、スクール・サポート・スタッフ（20,600人）の追加配置。

※退職教員や大学生等に協力いただくための学校・子供応援ソーター人材バンク開設

感染症対策や学習保障のために迅速かつ柔軟に活用できる経費を1校あたり100～500万円支援。

※感染状況や学校規模等に応じて配分

◆ICT活用によるオンライン学習の確立

端末、モバイルルータ等を特に家庭でICT環境を整備できない子供向けに優先配置。

秋以降、第二波に備えて優先すべき地域の学校でオンライン学習が可能に。

※全国での学校現場サポート体制等を通じて、教職員向け研修やオンライントレーニングを提供

※今後、学習履歴の活用などを含めた、個別最適化された学びの実現についても検討していく



「子供の学び応援サイト」を通じた動画・教材の提供

(リンク数400以上、延間観回数497万PV以上)

子供の学び応援サイト

～臨時休業期間における学習支援～シッピータウンサイト

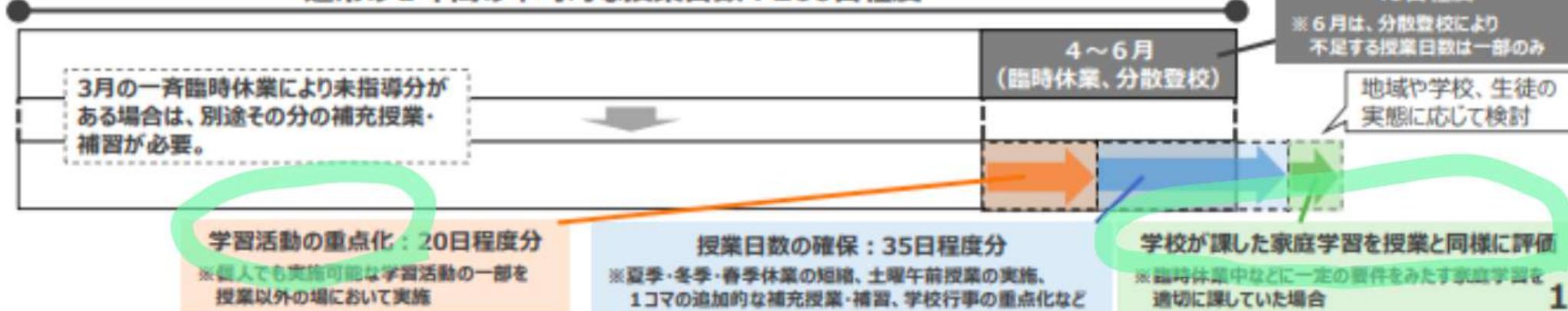


NHKの取組なども掲載

授業日数イメージ

学びの保障 ≠ 授業時数の確保

通常の1年間の平均的な授業日数：200日程度



学びの重点化：20日程度分
※個人でも実施可能な学習活動の一部を授業以外の場において実施

授業日数の確保：35日程度分
※夏季・冬季・春季休業の短縮、土曜午前授業の実施、1コマの追加的な補充授業・補習、学校行事の重点化など

学びの保障：45日程度分
※臨時休業中などに一定の要件を満たす家庭学習を適切に課していた場合

(2) 新型コロナウイルス感染症が収束した段階（「ポストコロナ」の段階）

【基本的な方針】

Society5.0 時代にこそ、教師が先端技術を活用し、児童生徒に対話的、協働的な学びを実現することが必要である。

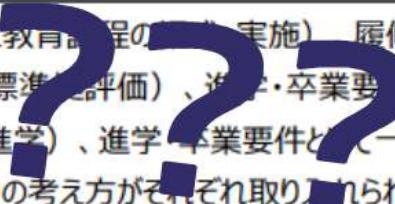
対面指導 + オンライン教育 = ハイブリッド化

踏まえ、発達段階に応じて、ICT を活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育等とを使いこなす（ハイブリッド化）ことで協働的な学びを展開する。

履修主義 → 修得主義

義務教育の基礎の上に高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする高等学校における教育の違いにも留意する必要がある。

また、知・徳・体を一体的に育む「日本型学びの観」の良さを継承するとともに、履修主義と修得主義（※）等の考え方を柔軟に併用していくことで、多様な子供たちが誰一人取り残さ



個別最適化された協働的・探究的な学び

年間の標準授業時数等を踏まえた教育課程の実施（実施）、履修した上で一定の成果を上げることまで期待される修得主義（例、目標達成評価）、進学・卒業要件として一定年限の在学を要する年齢主義（例、同一年齢の進級・進学）、進学・卒業要件として一定の課程の修了を要求する課程主義（例、制度としての原級留置）の考え方がそれぞれ取り入れられている。

国施策と学校現場の乖離 整備から、利活用へ

VS

不十分な環境

全人的な教育＆セフティーネット

「新しい教育様式」に向かうプライオリティはない

だからこそ、皆さんの出番 !!

なんだけれど、一筋縄ではいかない

利活用向上に向けての Action 1

首長

教育長

財政担当課

情報システム課

議会

保護者

明確な指針

広島県、熊本市、尼崎市、芦田市、小金井市

全体最適化に向けての
ステークホルダーの関係性把握

学校教育部長

導入担当課

上席＆室課長

国補助金等

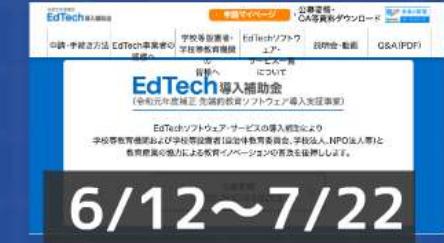
文科省

経産相

EdTech補助金

指導主事

校長会 & 学校



6/12～7/22

都道府県補助金

明確な指針

広島県、熊本市、尼崎市、戸田市、小金井市

ICTを活用した「未来の小金井教育推進プラン」

教育スローガン

笑顔いっぱい。ワクワクいっぱい。

様々な課題に対して当事者意識をもって、
創造的に問題解決しようとする子供の育成

子供1人ひとりの「Agency」の育成

—STEAM教育の推進—

幅広い分野で、新しい価値を創造できる人材の育成
— 産学連携・地域連携・人材の活用のさらなる充実 —

『知る』↔『創る』の循環

- 効率的な知識の獲得と
創造的な学びの充実
- アクティブラーニングの
さらなる充実

超情報化社会を 生きる力の育成

- 万全のセキュリティー
スキルの獲得
- 情報リテラシー獲得
(プレゼンテーション能力・タイプ
ング等)
- 情報活用の能力

個別最適化学習の推進

- いつでも（必要とする時）
- どこでも（学校・家庭でも）
- 何度も（納得するまで）
- どんな状況でも（登校できなくても）

★1人ひとりの特性や習熟の程度に応じて

EdTech等の活用

ICT機器を活用した 協働学習 の推進

まなびポケットの活用

プログラミング教育

- 答えのない問い
- 論理的思考力の育成

小金井GIGAスクール構想

子供1人に1台のコンピュータの整備

高速インターネット環境の整備

指針を創る!!

- 指導事例・実践の共有
- 教材の共有
- 個別対応事例の共有

教員の 働き方改革

情報共有による
業務の削減・効率化

- 起案決議の簡素化
- 成績管理の効率化
- 各種計画の共有

利活用向上に向けての Action 2

対 学校

現状の不十分なICT環境

EBPM

大前提：配布ID数（全体＆学校毎）の把握

IDの配布＆まなびポケットへのログイン

環境整備に向けたロードマップの提示

利活用向上に向けての Action 2

月毎のデータ活用データの公表 EBPM

利活用をデータから把握する意味の説明

自治体規模

①市全体

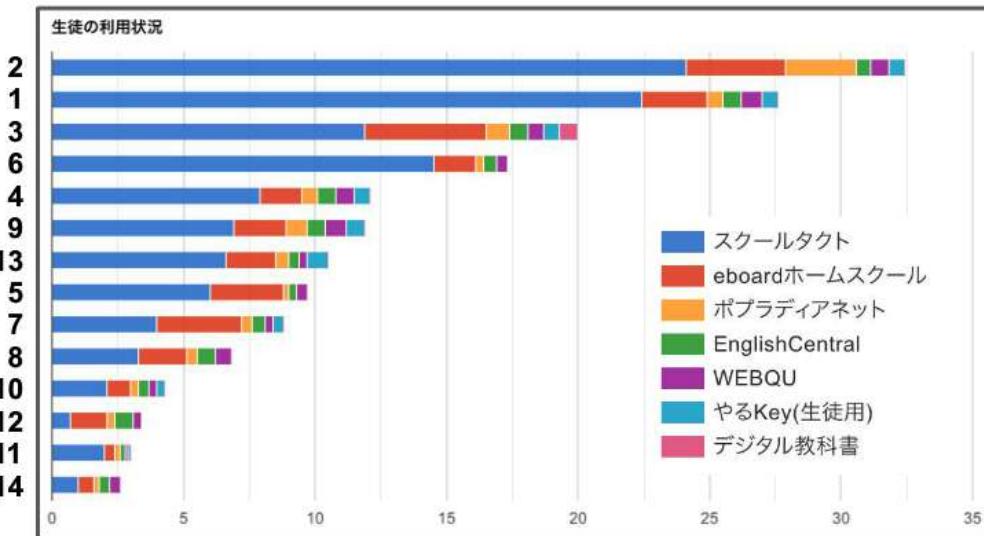
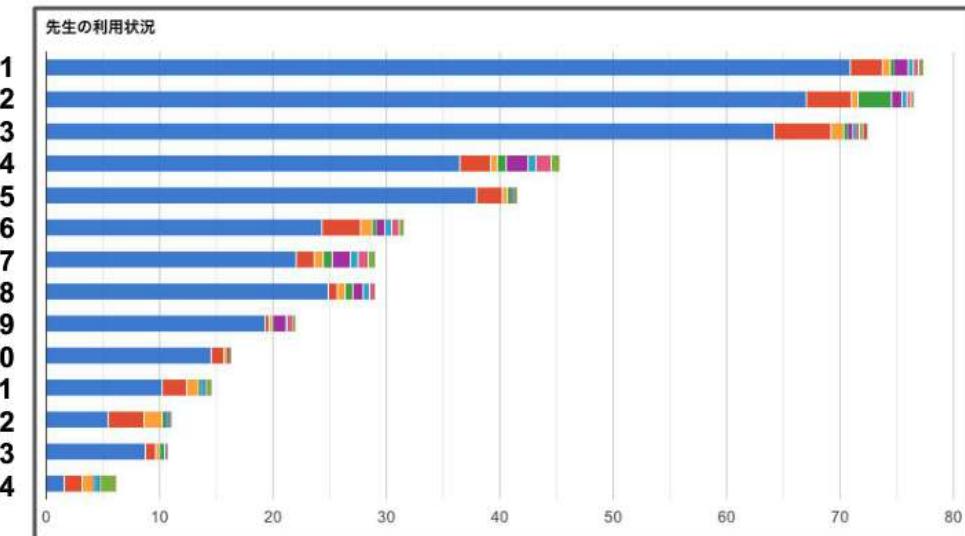
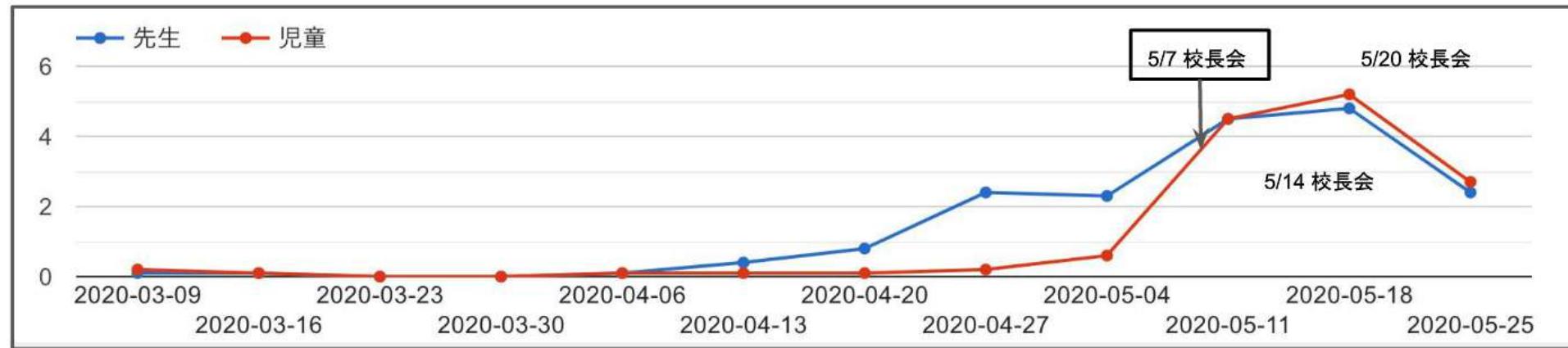
②学校毎

③教員毎

活用事例紹介

具体的支援へ共闘

エビデンスベーストによるICT利活用ドキュメント



5/7 : ターニングポイント=校長のリーダーシップ
(一部活用する教員がいても、それは全校の利活用に広がっていかない)

校長会が率先して、schoolTaktで情報共有

最大32.4 最小2.6 この差の原因は?

教員が使用すれば、子供の利活用もUP

使用する教員とそうでない教員の理由は何か?

活用は増えたが、全IDに対する利活用率はまだ低い
学年によって、利活用率に相違が見られる
この1年1組の利活用の実態、工夫を知りたい!!

次世代教育推進委員会

エビデンスをもとに、利活用PUの工夫を探り校内に

利活用UPの事例の普及 & 啓発

教員

6月：学校再開
ICT利活用に向けた
最終準備期間

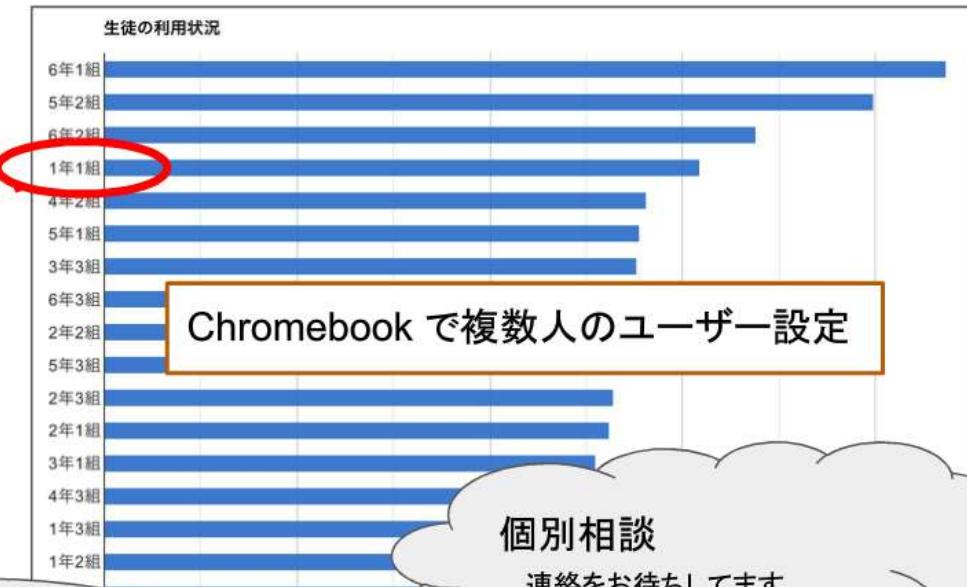
児童・生徒

ICTスキルの向上

Chromebook・まなびポケットへのログイン
(ID & PW、クラウド感覚の体得)
ミラーリング、マルチタブ(ウインドウ)
schoolTaktの研修&習熟(勤務報告)
まなびポケット搭載各種コンテンツの利用

デジタルリテラシーの向上

PCスキルの習得(充電確認、Chromebookへのログイン)
タイピング(ローマ字)
学びポケットへのログイン体験
schoolTaktを使ってみる
WEBコンテンツの使用体験(ex.NHK for School等)



利活用向上に向けての Action 3

率先垂範

各種アイディア

①WEB会議システムを活用した各種会議 & 委員会の実施

校長会、副校长会、各種主任会&研修会

WEB会議システム + schoolTaktの活用

②教育研究会の授業研究にICT活用

縛りを入れる

③若手研修（授業研究）のICT活用

ポイント：若手育成の指導者のICT活用理解

自治体全体でICT利活用の姿勢＆雰囲気の醸成

利活用向上に向けての Action 4

生活指導主任会

+ schoolTakt

WEB QU

特別支援教育

養護教諭部会

コーディネーター連絡会

分析と学級集団づくりに、schoolTaktの徹底活用

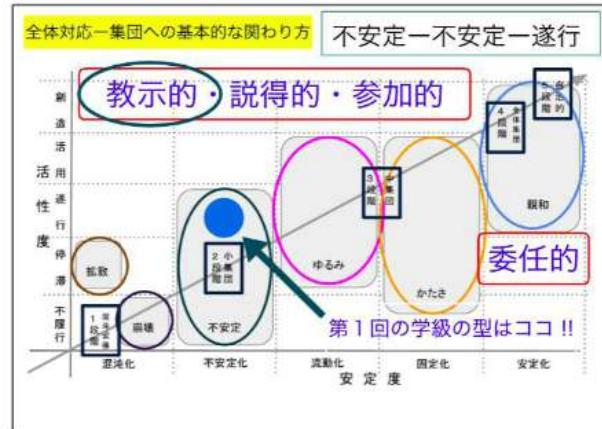
新しい事例検討シート

【年月日】

WEBQUを活用した学級集団づくり
—Relation Ship の構築を手がかりとした
事例検討 & コンサルタントSheet —

全体対応	1 学級の全体状況を知る
個別対応	2 学級の一人一人の子どもの状況を知る
架け橋対応	3 学級集団の関係性の構築に向けて

氏名 _____



1 学級の全体状況を知る

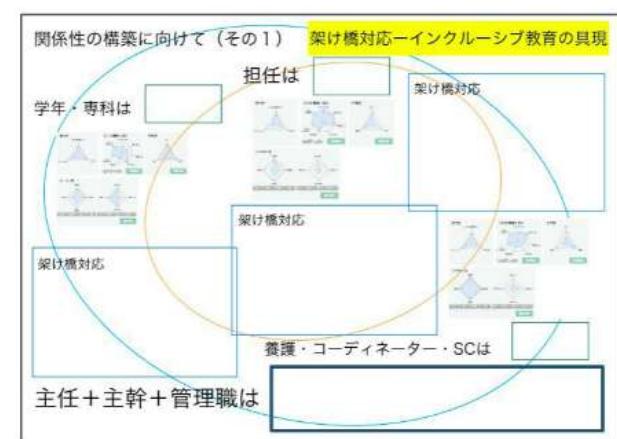
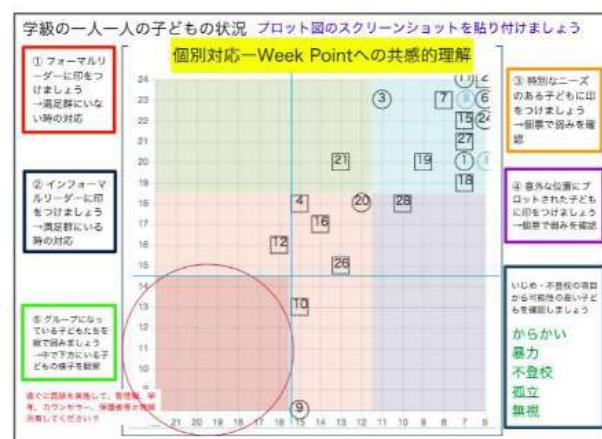
全体項目のコメント欄のスクリーンショットを貼り付ける

不実定期一括不安定一遂行
評議会
評議会
評議会

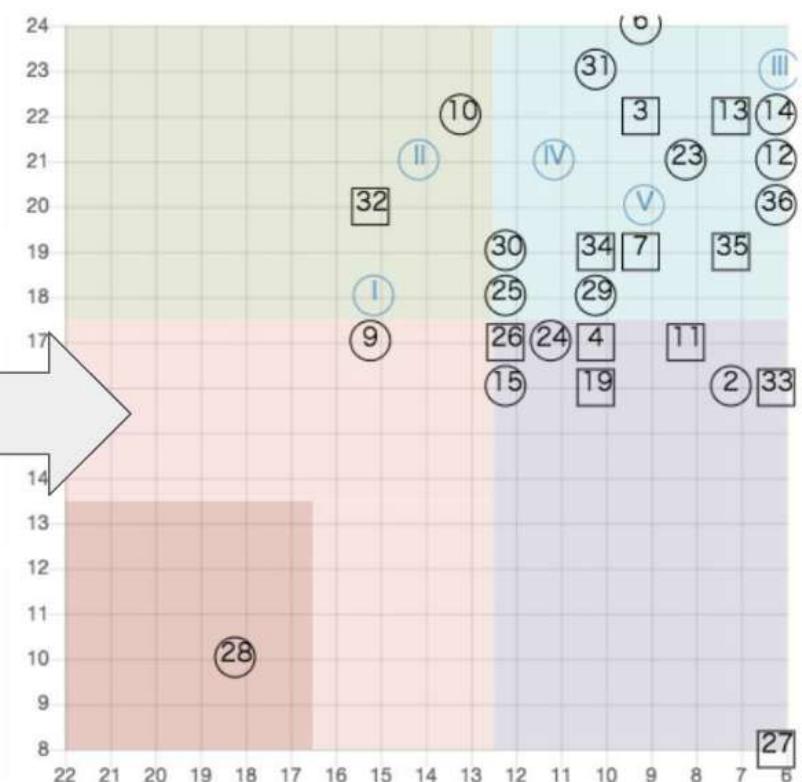
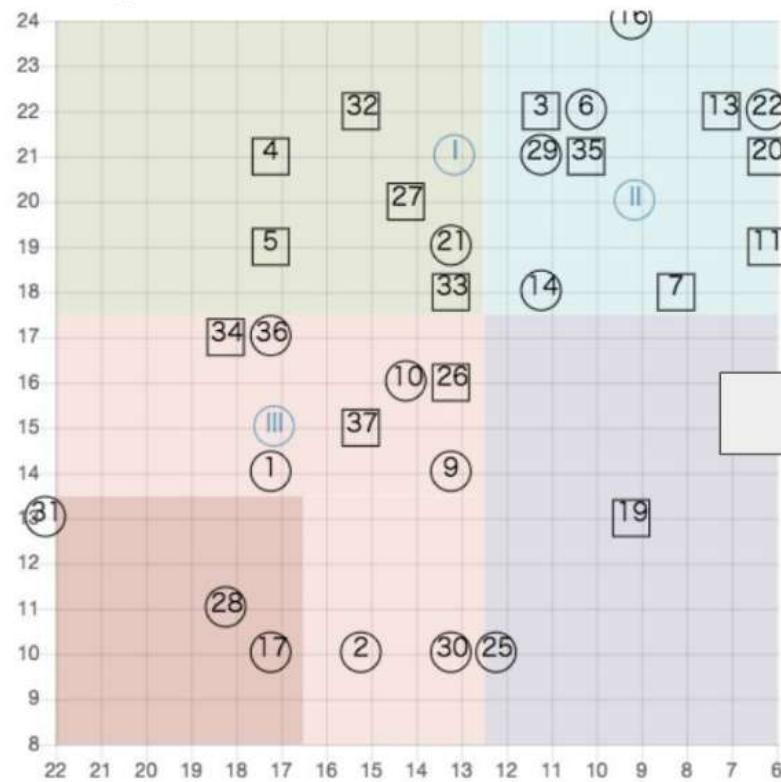
アクティブラーニングの集団の発達段階のスクリーンショットを貼り付ける

1 学級の全体状況を知る 組織的対応コメント&アドバイスを受けての感想

学級担任3
学年+専科2
養護+特支コーディ2
主任+主幹+管理職3



結果 1



体調 & 気分



体調 & 気分



早稲田大学大学院

教育学研究科紀要

別冊第 27 号- 2

「早稲田大学大学院教育学研究科紀要」別冊 27 号-2 (2020 年 3 月発行) 技術

「主体的・対話的で深い学び」の基盤としての
学習集団づくり
—WEBQU と schoolTakt とのデータ連携による教師の経験値と
科学的視点のベストミックスによる実践事例—

松 田
季

[https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?
action=repository_view_main_item_detail&ite
m_id=49519&item_no=1&page_id=13&block_i
d=21&fbclid=IwAR2wFgSDhDdoa02YKd2Mokv-
t_TIENpRkevyceZ4o5Zk4Q-j6wVEdtSQw](https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_view_main_item_detail&item_id=49519&item_no=1&page_id=13&block_id=21&fbclid=IwAR2wFgSDhDdoa02YKd2Mokvt_TIENpRkevyceZ4o5Zk4Q-j6wVEdtSQw)

No.27-2, 2019

ATE VOLUME N

利活用向上に向けての-まとめ

指針→環境

→風土→率先垂範

→校長支援

校長のタイプの見極め

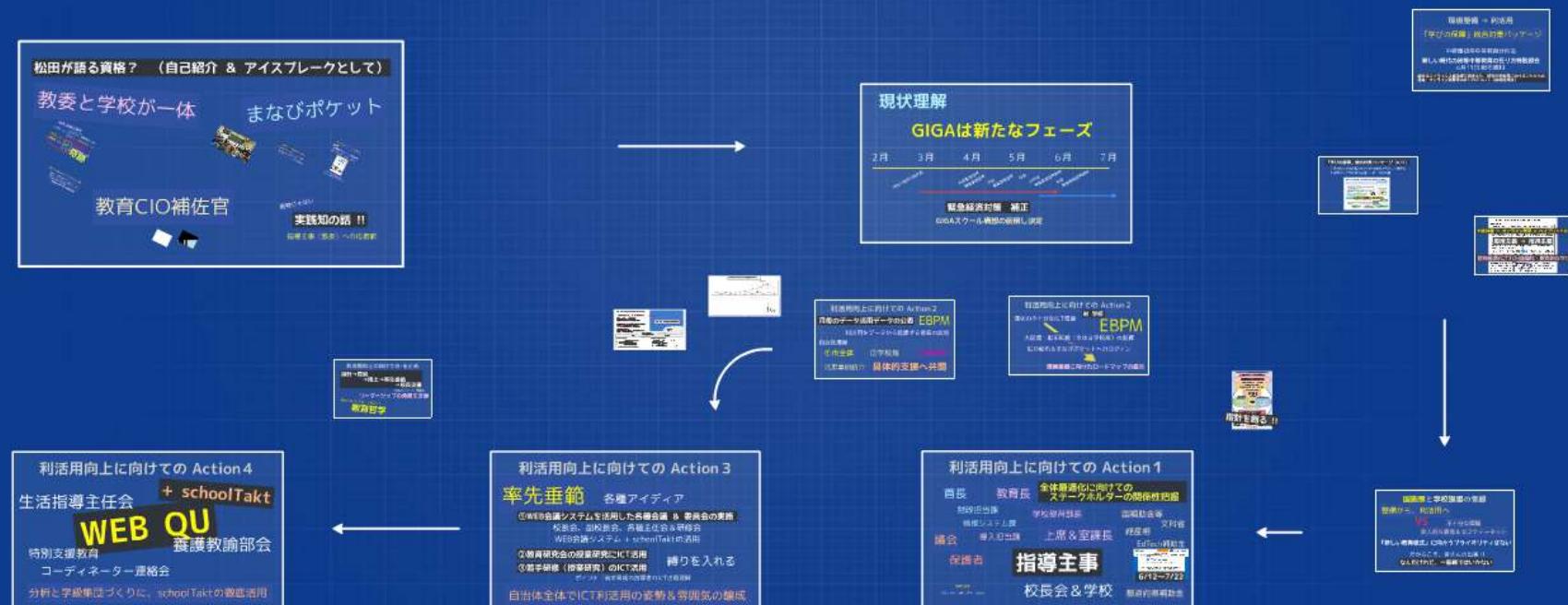
リーダーシップの発揮を支援

指導主事 VS 校長（&校長会）

教育哲学

【2020.07.01 まなびポケット活用向上セミナー】

まなびポケット活用向上施策



小金井市教育CIO補佐官 松田 孝